



# 平成30年7月豪雨発生 できる精一杯の、寄り添う支援を

真如苑では「平成30年7月豪雨」発生直後に災害対策本部を設置し、被害の大きかった地域の本・支部と連携して社会福祉協議会や、災害支援団体と情報を交換しながら支援の在り方を検討。7月9日から現在(8月31日時点)まで、真如苑救援ボランティア SeRV(サーブ)として1,000名以上が被害の大きかった11ヵ所の被災地域に100回以上出勤し、ボランティアセンターの立ち上げや運営のサポート、物資の搬入、泥のかき出し、家財の片づけ、義援金・支援金のお届け等の支援活動を続けています。

## SeRV(サーブ)とは?

1995(平成7)年に発生した阪神・淡路大震災を機に組織された真如苑の救援ボランティアグループ(Shinnyo-en Relief Volunteers の略称)です。災害時には、社会福祉協議会やボランティアセンターのニーズに対応し、支援活動を行ってきました。また、平日頃から地域のボランティア活動に参加するなど諸団体との連携を深めています。

【岡山県倉敷市】



7月半ばから8月末まで各県から週2回、バスで20名以上派遣

【岐阜県関市】

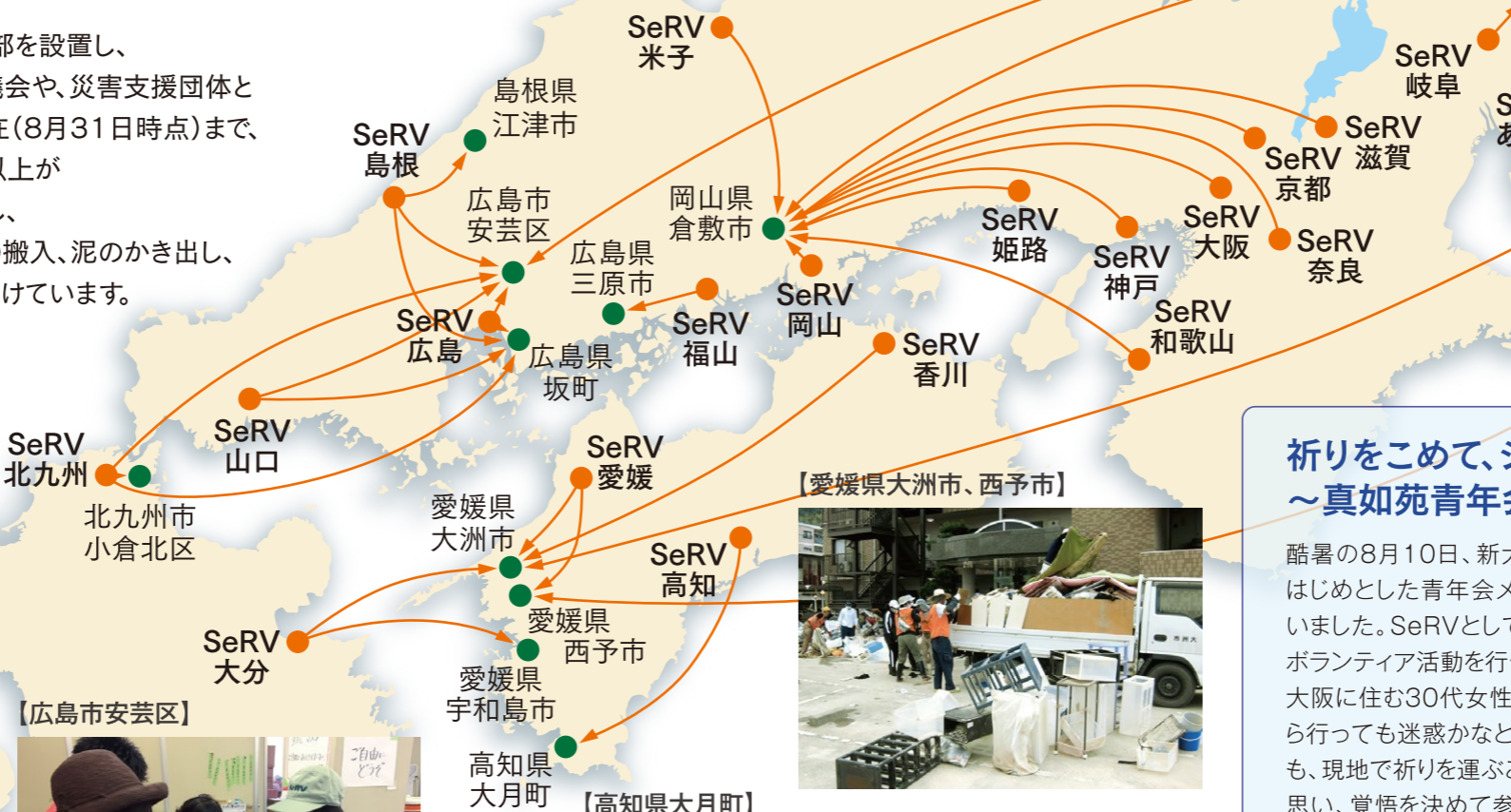


7月11日から18日まで毎日活動

【義援金・支援金】



全国本・支部で青年会が募金活動



【広島県三原市】



【広島市安芸区】



ボランティアセンター立ち上げに関わり、立ち上げ後は、毎日運営をサポート。支援活動にも加わる

【高知県大月町】



【愛媛県大洲市、西予市】



## 祈りをこめて、シャベル握って ～真如苑青年会、倉敷市真備町でボランティア活動～

〈現地レポート〉

酷暑の8月10日、新大阪駅に関西圏をはじめとした青年会メンバー42名が集いました。SeRVとして倉敷市真備町でボランティア活動を行うためです。大阪に住む30代女性は「体力がないから行っても迷惑かなと最初は思った。でも、現地で祈りを運ぶことができるならと思い、覚悟を決めて参加した」と意気込みを語りました。一行は約3時間かけてボランティアセンターに到着し、指示のもと被害の大きい地区に出発。到着後、二手にわかれた一方のグループは被災宅の庭で、人の身長よりも高く積もった土砂を外に運ぶ作業を行いました。休憩を含め約2時間の



作業を終えたSeRVメンバー。東京から来た20代男性は「作業を終えて住んでいた方が『本当にありがたいです。また頑張ろうと思います』と笑顔でおっしゃったので、今日、自分がさせていただいたことに意味があったと思った」と話していました。

SeRV  
本部

【義援金・支援金】



被災地域16ヵ所の県庁・市役所・社会福祉協議会に真如苑の義援金、支援金を届ける